

学 校 教 育 目 標	「輝く笑顔 二東生」
目 指 す 学 校 像	○笑顔（スマイル）があふれる学校 ○保護者、地域とともにある学校 ○勤めてよかったと思える学校

重 点 目 標	1 生徒用タブレットを活用し、「学びの指標」を意識した「生徒が主体となる」授業づくりの実現 2 生徒指導・教育相談の充実を基盤に、安心・安全で快適に過ごせる学校づくりと確実な管理 3 学校運営協議会を中核とした、「地域とともにある学校」づくりの実現 4 安心・安全で快適な教育環境の整備及び予算執行の適正化 5 情熱と使命感をもち、生徒・保護者・地域に信頼される教職員の育成
---------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成 (8割以上)
成	B	概ね達成 (6割以上)
度	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 評 価							実施日令和8年2月24日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【学びの質の向上に関する取組】 (現状) ○R6 全国学力・学習状況調査において、国語は全国平均と同等、数学は4.5ポイント上回った。 ○R6 市学習状況調査(国・数・社・理)において、1・2学年とも、市の平均を下回った。「授業の内容が分かる」と肯定的に回答した生徒の割合は、市平均をやや上回るものが多い。 (課題) ○R6 市学習状況調査において、「主体的・対話的で深い学び」の項目が、市の平均を下回ることから、「課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組む」授業や「話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする」授業づくりが必要である。	・「主体的・対話的で深い学び」の授業改善による生徒主体の授業づくりの実現 ・生徒用タブレットを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	①生徒用タブレットを効果的に活用し、「学びの指標」を意識した生徒主体の授業づくりに向けた授業改善を行う。 ②学校DX推進部を中心に、ICT支援員訪問を計画的に活用し、全教職員を対象にICTを活用した授業の公開、指導案のデータ化、共有化とその活用を行う。 ①協働学習用ソフトやデジタルドリル教材、デジタル教科書等のICT機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 ②朝読書やチャレンジタイムの時間を確保するとともに、チャレンジスクール(漢検・数検・英検の実施含む)への参加を通して、個に応じた学びを推奨する。	①「学びの指標」第2回の4項目における校内平均を昨年度を上回る3.3以上にすることができたか。(教職員) ②学校評価「授業や家庭学習において、タブレット端末を有効に活用できている」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(生徒) ①学校評価「授業に集中して、積極的に取り組んでいる」「授業が分かりやすく、楽しい」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(生徒) ②年間を通して、朝読書・チャレンジタイムの時間を確保し、チャレンジスクール(漢検・数検・英検の実施含む)を年間20回実施できたか。	①生徒主体の授業づくりに向けた授業改善を進め「学びの指標」第2回の4項目における校内平均が3.36と昨年度を上回ることができた。 ②学校DX推進部を中心にICTの効果的な活用を推進し、学校評価の肯定的な回答が92%となり、目標値を達成できた。 ①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、学校評価の肯定的な回答が、どちらも95%となり、目標値を達成できた。 ②朝読書やチャレンジタイムの時間を確保し、個に応じた学びを推奨するとともに、チャレンジスクールを年間21回実施することができた。	B A	○目標値の達成ではきたものの、学習に対する生徒と保護者の肯定的な回答には20%近くの差があり、生徒自身の学びの実感が学力テスト等の客観的な指標に反映されていないことが原因と考えられる。学びの定着に向け、デジタルの力でリアルな学びを支えていく。 ○長く活用してきた協働学習用ソフトの契約満了を踏まえ、協働学習の充実を図る代替ソフトや新たに配備されるiPadを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることができるよう学校DX推進部を中心とした校内研修等の充実を図る。併せて個に応じた学習支援を継続する。
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 (現状) ○R6 市学習状況調査において、「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」「先生はあなたのよいところを認めてくれている」項目が、市の平均を上回っている。 ○学校評価「先生は相談しやすく、相談に適切に対応している」「安心・安全・快適でいじめを見逃さない学校づくり」の項目において、生徒の肯定的回答が9割を超えている。 (課題) ○生徒一人ひとりに寄り添った組織的な支援体制の構築と学校内外の専門機関との連携・協力が必要である。 ○教職員自らが、常に人権意識を磨くとともに、生徒の異変やトラブルにアンテナ高く察知し、共有を図り、組織的な対応を図ることが必要である。	・いじめの問題や不登校等の未然の防止、早期発見と対応を図るための校内支援体制の充実	①毎週開催する生徒指導委員会と教育相談部会において、特別な支援や配慮を要する生徒の共通理解を図るとともに、養護教諭・相談員・SC・SSW等の専門的な見解を生かした支援につなげる。必要に応じて校外の専門機関との連携を図る。 ②生徒や保護者の状況や支援の必要性に応じ、Sola ルームやオンライン学習、自宅学習等の個に応じた選択肢を提示し、個別最適化を図る。 ③「心と生活のアンケート」を含む毎月のアンケートやおはようメーター等により、適時適切な支援や相談により、いじめや課題の早期発見・早期解決につなげる。 ④会議や研修を通して、教職員自身の人権感覚や言語環境を向上させ、教職員自身が示範となる。	①学校評価「相手を思いやって、学校生活を送っている」「先生は相談しやすく、相談に適切に対応している」「安心・安全・快適でいじめを見逃さない学校づくり」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(生徒) ②学校評価「思いやりや豊かな心を育む教育」「相談に適切に対応している」「安心・安全・快適でいじめを見逃さない学校づくり」の項目において、肯定的な回答を8割以上にすることができたか。(保護者) ③学校評価「生徒指導」「教育相談」「人権教育」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(教職員)	①生徒指導委員会及び教育相談部会において、情報共有を確実にし、組織的な対応を図ることを徹底するとともに、学校内外の専門的な知見を活かした支援を図ることで、学校評価の肯定的な回答が、98%・90%・94%となり、目標値を達成できた。 ②生徒や保護者の要望に寄り添い、個に応じた支援を丁寧に行うことで、学校評価の肯定的な回答が、87%・80%・82%となり、目標値を達成できた。 ③年間を通して会議や研修において教職員自身の人権感覚や言語環境、組織で対応する意識の向上を繰り返し伝え、学校評価の肯定的回答が99%・99%・98%となり目標値を達成できた。	A	○生徒が安心・安全で快適な学校生活を送ることができるように、学習環境・言語環境・生活環境を整え、生徒の異変やトラブルにアンテナ高く察知し、生徒や保護者に寄り添った丁寧で組織的な対応を引き続き徹底していく。また、報告・連絡・相談・確認を確実に行うことで、学校内外の専門機関と連携を図りながら、生徒のよりよいはぐみにつなげていく。 ○おはようメーター等のデジタルや心と生活のアンケート、いじめアンケートの活用、日常における教職員同志の情報共有やコミュニケーションにより、生徒の異変やトラブルの早期発見と組織的で丁寧な対応を行う。
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○R6 市学習状況調査において、「地域とのかかわり」の項目すべてが、市の平均を上回っている。 ○現在までの学校運営協議会において、育てたい生徒像「あいさつができる生徒」について、共通理解を図った。 ○保護者や地域に学校行事や授業の公開を行い、地域とともにある学校づくりを推進している。 ○PTA 組織の取組が、本校の教育活動の後押しとなり、生徒の安心・安全につながっている。 (課題) ○情報化とともに個人情報保護等の社会状況を踏まえ、学校からの情報発信を積極的に行うとともに、土曜授業や学校行事等の保護者・地域への学校公開の機会を適宜実施していくことが必要である。 ○生徒の地域における行事やボランティアの参加による地域を担う人材の育成が求められている。	・学校・家庭・地域で共に活動するコミュニティ・スクールの充実 ・ICT ツール等を活用した情報発信と、教育活動参観機会の設定	①あいさつの大切さや意義を考えさせ、育てたい生徒像「あいさつができる生徒」を育成する。 ②学校運営協議会等を通じて、大宮区と見沼区の情報を収集し、生徒・保護者・地域が協働できる場を実現する。 ①学校連絡アプリ「スクリレ」を活用した生徒の教育活動、校外での活躍等の配信、学校HPの時宜的な更新等により学校の情報を広く公開する。 ②学校運営協議会の様子を知らせる便りを発行し、学校・家庭・地域が一体となった活動を共有する。 ③学校教育活動の参観、公開を適宜実施する。	①学校評価「進んであいさつができている」の項目において、肯定的な回答を9割以上(生徒)・8割以上(保護者)にすることができたか。 ②学校評価「地域の人々と協力し合い生活している」の項目において、肯定的な回答を9割以上(生徒・保護者)にすることができたか。 ①学校評価「参観の機会を適切に設け、様子をわかりやすく伝えている」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(保護者) ②授業参観や学校行事の学校公開を年7回以上実施することができたか。	①生徒指導担当や生徒会担当と連携して、あいさつができる生徒の育成を図り、学校評価の肯定的回答が生徒95%・保護者82%となり、目標値を達成できた。 ②地域との連携を図り、学校評価の肯定的回答が生徒93%と達成し、保護者は86%だったが、地域で多くボランティアを行うことができた。 ①学校連絡アプリ「スクリレ」を活用して、学校の教育活動の様子や情報を広く公開し、学校評価の肯定的回答が94%となり、目標値を達成できた。 ②保護者が直接生徒の様子や教育活動を参観できるよう、授業参観や学校行事の学校公開を年間10回以上実施することができた。	A A	○誰かと一緒でなくとも一人でもさわやかで気持ちの良いあいさつができる生徒の育成を目指し、引き続き生徒指導担当や生徒会担当と連携を図りながら、あいさつを推進する。 ○自分ができる地域貢献として、地域のイベントやボランティアへの参加を促すとともに、保護者への周知も図っていく。 ○生徒のよりよいはぐみのため、保護者・地域のさらなる理解と協力を得られるよう、個人情報保護に配慮しながら教育活動の様子や情報を引き続き広く公開するとともに、直接生徒の様子が見られる参観の機会を多く設定し、保護者・地域と連携を図りながら「地域とともにある学校」を目指す。
4	【教育環境の整備に関する取組】 (現状) ○学校評価「美しい環境づくり・校内環境の整備」の項目において、肯定的な回答が生徒・保護者とも9割5分を超えている。 ○開校41年目を迎え、施設等の破損や劣化が見られる箇所がある。 (課題) ○生徒にとって、心身ともに健康で居心地のよいWell-being(幸せ)を感じられる校内環境づくりが必要である。 ○施設等の破損や劣化に係る修繕や、月例実施の安全点検後の速やかな事後対応により、学校事故の未然防止を図る。	・施設等の破損に係る修繕及び環境整備による安心・安全・快適な環境づくり ・予算執行の適正化による安心・安全・快適な環境づくり	①月例実施の安全点検の実施及び適切な事後対応を遂行するとともに、必要に応じて市教委との連携を図り、経過観察を行う。 ②生徒委員会を中心とした、清掃・備品管理及び清潔で季節感のある環境を維持する。 ①会計担当者会議の定期的な開催及びPTAによる中間監査の実施による予算執行の管理を行う。 ②事務職員との連携による予算執行の管理を行う。	①学校評価「美しい環境づくり・校内環境の整備」の項目において、肯定的な回答を9割5分以上にすることができたか。(生徒・保護者) ②学校評価「生徒会活動」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(教職員) ③施設等の破損に係る学校事故を防止することができたか。 ①学校評価「庶務会計」の項目において、肯定的な回答を10割にすることができたか。(教職員) ②予算執行に係る管理を適正に行い、確実に執行することができたか。	①安全点検の実施及び素早い修繕の遂行を年間通して実施し、学校評価の肯定的回答が生徒98%と達成したが、保護者は94%となりやや達成できなかった。 ②生徒委員会の充実を図り、学校評価の肯定的回答が100%となり、目標値を達成できた。 ③施設等の破損に係る学校事故を防止できた。 ①会計担当者会議やPTAによる中間監査を確実にし、学校評価の肯定的回答が100%となり、目標値を達成できた。 ②予算執行管理を適正に行い確実に執行できた。	B A	○開校42年目となるため、施設等の破損や劣化が見られる部分を見逃さず、必要に応じて教育委員会への報告を行いながら、生徒が安心・安全に生活できる環境を維持していく。 ○生徒自身が居心地のよい環境を意識して維持できるように、生徒委員会の充実を図り、ものや場所を大切にできる生徒を育成する。 ○事務職員、各学年会計担当、管理職の連携を図り、予算執行を引き続き適正に行うとともに、PTAによる外部監査により中立性と確実性を担保していく。
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 (現状) ○ストレスチェックの結果から、職場について、職員の経験や役割、所属等を生かしたOJTが進められ、よい環境にあることが分かった。 ○学校課題研究を中心に、ICTの活用等、校内研修が計画的に行われている。 (課題) ○経験の浅い教員や年齢が若い教員の割合が増えてきていることから、職場における充実したOJTと学年や分掌等による連携・協力体制の確立、組織的な体制づくりが必要である。 ○教職員が心身ともに健康で、居心地のよい環境で働くことができ、Well-being(幸せ)を感じられる職場環境づくりが、生徒のWell-beingにもつながることを意識し、生徒のはぐみに寄与する働き方改革の実現が求められる。	・協調と創意を基盤とし、挑戦を奨励する「心身ともに健康で明るく互いに磨き合う、チームワーク」の向上	①校務分掌等、担当者同士のコミュニケーションを活性化し、OJTやPDCAサイクル等を実現する。 ②学校DX推進部を中心に、校内研修の充実やICTを活用した業務の効率化・共有化を図る。 ③教職員間のコミュニケーションを大切にするとともに、同僚性をはぐむ素地となる言語環境を整え、相手を尊重し、互いが協力することでよりよい解決策を見出し、いけるチームワークをはぐむ。 ④休暇等の積極的・計画的な取得を促進し、心身ともに健康な状態を維持することで、ゆとりをもって生徒と接することができるようにする。	①勤務に関する意識調査「風通しのよい職場環境・悩みの相談・業務の相談・協働し合う体制の整備」の項目において、肯定的な回答を9割以上にすることができたか。(教職員) ②研修・会議・電子掲示板等の情報提供や情報共有を通して、ICTを活用した業務の効率化・共有化を図ることができたか。 ③教職員各自で計画した自己評価に係る「研修」「働き方改革」について、予定通りに進めることができたか。	①職場内でのコミュニケーションや言語環境を大切にし、組織での対応を徹底することで、勤務に関する意識調査の肯定的回答が、風通し100%・協働96%と目標値を達成したが、悩みの相談74%・業務の相談85%と目標値に達しなかった。 ②研修・会議資料のデジタル共有や電子掲示板、Teamsの活用により、業務の効率化や共有化を図ることができた。 ③休暇等の積極的・計画的な取得を促進するとともに、生徒指導や教育相談、保護者対応に組織で対応することを徹底し、教職員各自で計画した研修・働き方改革について概ね達成できた。	B	○教職員一人ひとりが「勤めてよかったと思える学校」になるように、キャリア段階を踏まえ、それぞれの強みを生かし、課題をフォローし合いながら、生徒をよりよいはぐむために「チーム二東」として組織で協働できる職場となるよう、校務分掌や学年配置、男女バランスや教科バランス等に工夫をする。 ○一人で抱え込まずに、皆でフォローし合い、コミュニケーションがとりやすい風通しのよい職場づくりを引き続き行い、教職員が肉体的にも精神的にも健康で幸せに働くことができるよう、休暇等の取得を促進していく。

